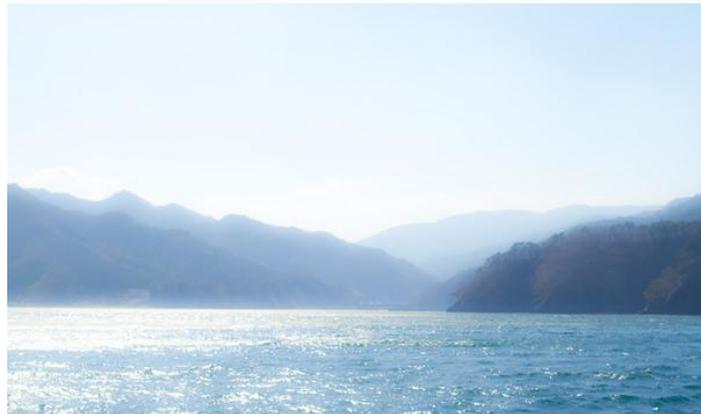


つなぐちゃんベクトル

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会社内誌 臨時増刊 357号 2011.4.30 発行 社会政策研究所

復興の狼煙^{のろ} ポスタープロジェクト



3月11日。地球が小さく呼吸しました。

それはわたしたちにとってあまりにも大きくそして悲しい呼吸でした。

町は色を失いました。

思い出として語らうまでにはどれだけの月日が必要かわかりません。

そろって歩みだすにはあまりにも深い傷だし、未だ現実に向き合うことを許されぬ東北の仲間もいます。

それでも、わたしたちは生きていきます。

たくさんの支援とたくさんの愛情と、そしてなにより「自分にできること」を探してくれたたくさんの想いすべて。

しっかりと受け取りました。

わたしたちは、このエネルギーを大切に大切に育んでいくつもりです。

月日が経ちこのポスターが色褪せた時、沿岸の町は活気の色に染まっているはず。

みつめていてください。

この地から「ありがとう」を形にできるその時まで。

さあ、復興の狼煙が上がりました。

まずは釜石から。



一緒に悲しむことよりも、あなたの仕事を一生懸命やつてほしい。
それが沿岸を、岩手を元気にする力になると思うから。



一緒に悲しむことよりも、あなたの仕事を一生懸命やつてほしい。
それが沿岸を、岩手を元気にする力になると思うから。





一緒に悲しむことよりも、あなたの仕事を一生懸命やっつけてほしい。
それが沿岸を、岩手を元気にする力になると思うから。



一緒に悲しむことよりも、あなたの仕事を一生懸命やっつけてほしい。
それが沿岸を、岩手を元気にする力になると思うから。



一緒に悲しむことよりも、あなたの仕事を一生懸命やつてほしい。
それが沿岸を、岩手を元気にする力になると思うから。



一緒に悲しむことよりも、あなたの仕事を一生懸命やつてほしい。
それが沿岸を、岩手を元気にする力になると思うから。





一緒に悲しむことよりも、あなたの仕事を一生懸命やつてほしい。
それが沿岸を、岩手を元気にする力になると思うから。



一緒に悲しむことよりも、あなたの仕事を一生懸命やつてほしい。
それが沿岸を、岩手を元気にする力になると思うから。



「自分に何が出来るだろう？」

そんな自問が始まりだった。すぐに答えが見つからない事なんて最初から分かっていた。何も出来るわけが無い。そう結論づけても、誰も自分を責めやしない。それ程の事が起こったのだから。でも、あきらめるのは悔しかった。何か出来る事があるはずだ。根拠の無い確信みたいなものがそこにあった。盛岡から、被害の大きい沿岸部の人達にできること。悩んでも悩んでも悩んでも、答えはみつからなかった。携帯が鳴った。友からだった。悩んでいたのは自分だけじゃなかった。急に勇気が湧いてきた。そして、僕たちは動き出した。気付いたら、一緒に動く仲間にもまれていた。当たり前の事を、当たり前前に伝えていく。これが正しいことなのか、いまだに分からない。でも、伝えるべきことがそこにある。そして、信じることはできる。きっと同じ思いでいる仲間が大勢いるであろうことを。 2011年4月

詳しくは次のサイトにて ⇒ <http://fukkou-noroshi.jp/>

たまには太陽の子・手をつなぐ、たまにはつなぐちゃんベクトル、たまにブログたまにはチェック



大阪市天王寺区生玉前町 5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行